

この原稿はGWに書かれているが、GWといえればお盆や年末年始と並んで各地の渋滞が毎年のニュースになる時期である。そこで今回は筆者が先日訪問した英国ロンドンの渋滞に対する取り組みを書きたい。2020年には東京オリンピックの開催が決まり、これへ向けた目下最大の課題は道路渋滞であるというが、先に行われた2012年ロンドン五輪でも交通渋滞にどのように対応するかがやはり大きな焦点だったからである。

道路や鉄道（地下鉄）それぞれにおいて様々な対策が講じられたようであるが、以前からロンドンが大规模に取り組んでいたのは渋滞税（コンジェスチョン

ロンドンにおける渋滞対策

・チャージ）の導入であった。この税金はもともと2003年2月に当時のリビングストン市長が導入し、その後のボリス・ジョンソン市長になっても継続されてきたものである（ちなみにジョンソン氏は渋滞にイライラしたバコの吸い殻を車内から捨てた若者を通勤途中の自転車から一喝したもの、直後に一緒に写真撮影をしてやることでもうゴミ捨てしないと円満に約束させたという逸話を持つ）。

が公共交通システムのために本当に適切に使われているかについては皆が疑問を持っている。中心部では確かにバスや地下鉄の本数は増えた。しかし少し郊外に出れば、遅延や予告なしの工事による運休は依然として日常茶飯事である。また、ほとんどのバスや地下鉄ではエアコンが導入されておらず、たとえ真夏であっても駅や車内に「水分を頻繁にとりましょう」と書かれたポスターが増えるだけである。

ロンドン中心部へ向かうすべての車道に監視カメラを設置し、このカメラ映像をもとに1日あたり10^{ポンド}（約1800円、条件によって割引あり）の税を徴収、期日までに支払いをしなければ60〜187^{ポンド}の罰金が課せられるというものである。得られた税金は市内公共交通システムの改善に利用されることになっている

その上、渋滞税という財源が導入された後でも交通機関の料金は上昇し続けている。2015年5月現在のICカードを用いた初乗り料金はバス1・5^{ポンド}（約267円）、地下鉄2・3^{ポンド}（約410円）、また現金での初乗りだと地下鉄は4・7^{ポンド}（約836円）もある。バスに至っては乗客の暴動を避けるためか2014年7月から現金での支払い自体が受け付けてもらえなくなっている。

渋滞の負担か 料金の負担か



みねぎし しんや

金融論。ロンドン・メトロポリタン大学博士課程修了、PhD。1973年生まれ。

名古屋経済大学
経済学部准教授

信哉 峯岸

が、この制度のために市内を行き来する人の多くはバスや地下鉄を利用するようになり、ロンドン交通局の発表では現在までに約15%の渋滞が解消されたそうである。確かに筆者がかつて留学していた数年前と比べ、今回の訪問でも渋滞はかなり改善されているように感じられた。

ただし、徴収された税金が公共交通システムのために本当に適切に使われているかについては皆が疑問を持っている。中心部では確かにバスや地下鉄の本数は増えた。しかし少し郊外に出れば、遅延や予告なしの工事による運休は依然として日常茶飯事である。また、ほとんどのバスや地下鉄ではエアコンが導入されておらず、たとえ真夏であっても駅や車内に「水分を頻繁にとりましょう」と書かれたポスターが増えるだけである。

